

元チャンピオンは余生（主人公は20歳です）をアローラで楽しむ

センチュリオン大好き

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

シンオウ地方チャンピオンシロナの前のチャンピオンのモルテはチャンピオン時代に稼いだお金で余生（主人公は20歳です）をアローラで過ごすお話です

目

次

プロローグ？的な？

こここの地方の博士は不法侵入者だ！

5 1

プロローグ？的な？

俺は……元シンオウチャンピオンだ……

チャンピオン時代に稼いだお金が沢山ある……

そのお金を使って夢を叶えようと思う……

その夢とは……『リゾート地として有名なアローラ地方に引っ越して自宅警備員生活をしよう』という夢だ

……ついでに俺の相棒がなんなのかを調べる為に……

♪三年前♪

「勝者！チャレンジャーのシロナ！」

「負けた…………だと？」

「やつたあ…………！」

♪回想終わり♪

的な事があつてチャンピオンじゃなくなつたんだよなあ…………

え？回想が中途半端だつて？仕方ないだろあの時は俺もショックで
あんまり覚えてないんだしさ…………

「さて……引っ越す前にアイツに一言言つてから引っ越しますか」

そう言い俺はスマホを取り出しLINEを開く……そしてある人に電話をする

……

ワンコール

……

ツーコール

……

「……なんだモルテ」

「あ、レツド？お久々」

「……寒いから早くしろ」

「俺アローラ地方に引っ越して自宅警備員になるわ」

「……は？」

「アローラ地方に引っ越します」

「アローラつて確か……」

「ずっと暖かいリゾート地」

「…………俺達も行く」

「嫌だし着いてくんな……つーか達？」

「グリーンも居る」

「嘘だよな？」

「マジかよ……アイツの事だから絶対に来る……もう駄目だ……お
しまいだア……」

「わかつた着いてきていい」

「ありがとう……」

「どうしようか……」

「マジか……1人でのんびり暮らそうと思つたのにあいつらも来る
のかよ……アイツらなら俺を外に絶対に連れ出す……＼(^o^)／
「マスター大丈夫？」

「ウツロイドか……」

「どうしたんですか？」

主人公説明中

「まあ……」

「いいけどさ……」

「そういうえば他のポケモン達に引っ越す事言つたんですか？」
「今から言おうとな」

「早めに言つた方がいいんじゃないですか？」

「……そうだな……引つ越すの3日後だし」

はあ……つと息を吐き

「出て来いニンフィア、ボーマンダ、ピカチュウ、ミロカロス」

「話は聞いてましたよマスター」

「じゃあ話は早いなミロカロス」

「3日後引つ越すぞ」

「うん知つてた」

とニンフィアが言い

「主様と居られるのならどこでもいい」

とボーマンダが言い

「レツド様のピカチュウも來るのでしようね……♡」
とピカチュウが目を♡にして言う

まあそれから色々あつて3日後……

(手抜きじやねえ！カットだ！)

（空港）

「よおグリーン、レツド」

「珍しいなお前が遅れないなんて」

「うるせえ」

「……」ワクワク

「レツド……余程楽しみなんだな……」

「……別に」ワクワク

「……ワクワクってなんか見えるぞ」

「……」ガーン

「落ち込んだ……」

「そういえばモルテ、家はどこなんだ？四つ島があるらしいが」

「メレメレのハウオリシティだ」

「マジかよ……あそこの相場高いだろ？」

「85億程度だ」

「は？高過ぎねえか!?」

「地下にバトルフィールドと研究施設造つたからな」「そりや……そとか……つーか研究施設?」

「ああ」

「なんの?」

「マスター ボールの」

「……なんで?」

「量産して自分が使う為」

「……クズだな……」

「褒めるな照れる」

「褒めてねえよ……つーか金足りたのか?流石に……」

「ウツロイドの情報をエーテル財団に提供しただけだ」

「それでも流石に……」

「あそここの社長がキモイ程ウツロイドの情報を知りたがるんだ……もしかしてと思つて80億程くれたら情報提供してやるつて言つたら喜んで出したさ」

「……」

アローラ地方メレメレ島行きの便が……

「そろそろか……行くぞ」

「……そうだな!」

「……」

こうして俺等はアローラ地方に行くのであつた

「この地方の博士は不法侵入者だ！」

前回のあらすじ

L I N E !

空気なレッド！

空港！

擬人化！

アローラ！

モルテの家へ

「はあ、着いたああ！」

とグリーン

「ここが俺の家かあ……」

と俺

「そうですねマスター

とウツロイド

「そろいえばウツロイド」

「なんですか？」

「……なんでボールから出てんの？」

「ラヴパワーです」

○(、・。・+○) ドヤア……

「……あ……そう」

「なあモルテ、俺達の部屋ってどこ？」

「ん？そこを右に曲がった所だよ？2つあるから好きに使ってくれ」

「そろいえばとモルテは思い出しレッドとグリーンに問う

「お前等いつまでこの家に居るんだ？」

「ん？俺ここで暮らすよ？」

「……」

は？

「ワンモア」

「ここで暮らす」キッパリ

……え……

「……俺もだからな……一応」

「マジかよ……つーかグリーン……お前ジムは？」

ふつ……とグリーンは笑い

「もう他の奴に任せてあるから大丈夫」

大丈夫じゃねえよ……

「レッドは？」

「……別に山に居ても楽しくない」

「つー事は……二人共ここに住むの？」

「ああ」

「無理」

「マスター」クイクイ

「ん？どうしたウツロイド」

「私別にグリーンさんやレッドさん居ても大丈夫だよ？」

「俺的に無理……」

「私からもお願ひ……ピカチュウ様と一緒に居たいです……」

とピカチュウが涙目で見てくる

「……ウツロイドとピカチュウが言うなら……仕方ない……な

「よっしゃ！」

と喜ぶグリーン

なんやかんやあり落ち着くまで数分後

「そいいえばさ」

ふと思いついたようにグリーンが言う

「この地方にはジムが無いんだな」

「ああそりうだぞ、キャプテンとかいう各タイプのエキスパート（笑）や
しまキングやしまクイーンとか言うそこの奴等がジムの代わり
的な事をしているらしい」

「ふーん……そうなんだ……」

ピンポーン

「誰だ？まだ誰も住所を知らないはずだが…………まあいい…………はい
はい～今出ま……」

ガチャ

「アローラ！」

「グリーン、早急にジュンサーさんに上半身裸に白衣を纏つた変態が
家に不法侵入してきたと通報してくれ」

「ちよつとちよつと僕は不審者じやないよ、元シンオウチャンピオン
に元ジムリーダーにポケモンマスターさん……」

「ククイ博士……なんの用ですか」

とモルテ

「君達暇だろう？」

「そうですけど……」

「島巡りしてみないかい？」

「なんすか？それ」

不審者（博士）説明中……

「四つの島をねえ……」

「俺は嫌だ」

とモルテ

「いいねえ～」

とグリーン

「……」

無言なレッド

「お願い出来るかな?」

「モルテ～レッド～やろうぜ?」

「断る」

「……」

「仕方ねえな……モルテ……お前の女装写真をファンクラブに投稿するぞ?」

「喜んでやらせていただきます」

「レッド……この前の写真ブルーに送るぞ?」

「……やろう」

「博士これが3人の答えです」